

2025 年度入学 AO・学内 AO 入学試験(2 期) 小論文課題

千葉商科大学大学院
会計ファイナンス研究科

次の 3 つの課題(I、II、III)から 1 題を選んで解答しなさい。

I 「会計に関する課題」

以下の問題 A か問題 B のいずれかを選択して解答しなさい。なお、問題 A と B のどちらを選択したか冒頭に必ず明示すること。

問題 A

国際会計基準における新基準として IFRS 第 18 号「財務諸表における表示及び開示」が公表されました。

(別添資料 1「「営業利益」ルール統一」、別添資料 2「国際会計基準」、別添資料 3「損益計算書 3 区分に」2024 年 7 月 11 日、日本経済新聞)。

これに関連して、以下の問に答えなさい。

1. 日本基準および国際会計基準では、損益計算書において利益の源泉を区分して表示しています。①財務諸表における損益計算書の役割を貸借対照表と比較して述べるとともに、②区分表示の意義について述べなさい。
2. 日本基準と国際会計基準における損益計算書の主要な相違点について述べなさい。
なお、国際会計基準については、新基準(IFRS 第 18 号「財務諸表における表示及び開示」)、現行の基準(IAS 第 1 号「財務諸表の表示」)のどちらの基準に基づいて記載しているかを明示すること。
3. 日本の上場会社では、日本基準に加えて、国際会計基準の任意適用が認められています。多くの企業がなぜ日本基準と異なる国際会計基準を任意適用しようとしているのか述べなさい。

問題 B

別添の資料 4 を読んで以下の問いに答えなさい。

1. 引用した文献においては、貸借対照表の在り方として静的貸借対照表と動的貸借対照表という二つの立場が示されている。二つの貸借対照表の在り方がそれぞれどのようなものと述べられているか、添付した資料全体から読み取って説明しなさい。

【次ページに続く】

2. 引用部(2)では、静的貸借対照表の在り方に対して批判が加えられている。どのような点が批判されているか、答えなさい。
3. 引用部(3)の記述をもとに、動的貸借対照表の立場から重視されることとそれを重視する理由についてどのように述べられているか、答えなさい。

II 「法律(税法・会社法・その他関連法)に関する課題」

下記【参考情報】及び別添資料 5 を確認し、「申告納税制度の意義」を述べた上で、「日本版記入済み申告書制度の是非」について、あなたの考えを述べなさい。

【参考情報】

- 記入済み申告書制度とは、税務当局が事業主や金融機関などから提出される納税者の所得情報を予め申告書に記入した上で、その申告書を納税者に提供し、納税者が内容に変更がある箇所等を修正又は記入して、税務当局に提出するという仕組みである。
- 日本版記入済み申告書制度とは、マイナポータルを通じて、確定申告に必要な情報を取得し、自動的に申告データに取り込むことによって、確定申告を簡便に行えるようにする仕組みである。

III 「ファイナンス・その他時事問題に関する課題」

会社法上、会社に各事業年度ごとに作成が求められている計算書類は、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表である。これに対し、金融商品取引法上、有価証券報告書の提出義務ある会社に作成が求められている財務諸表は、貸借対照表、損益計算書、株主等変動計算書及びキャッシュフロー計算書である。

1. これらに共通の、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書について、それぞれ何を表示するものか、またなぜこれらの作成が求められているのかを説明しなさい。
2. キャッシュフロー計算書は、何を表示するものか、また会社法の定める計算書類には含まれず、金融商品取引法の求める財務諸表にのみそれが含まれているのかを説明しなさい。

※別添資料は、著作権保護された素材（新聞記事等）を含むため、
掲載しておりません。